

久高島の漁港

久場 貫夫

沖縄本島の南部、太平洋側に周囲 8 km 程の小さい島(久高島)がある。

大陸から丸木舟を漕いで台湾を経由して、列島に渡って来た先祖が、沖縄本島を目前にして先ずは、手前の久高島に上陸したのだろうか。

対岸の本島側、知念岬には島の安寧を祈る王家の御願所[斉場御嶽]が位置している。

島の南端、フェリーの着く商港の周りに数十戸の屋敷が点在しており、対岸からフェリーが着く時間に、係のおばさんが船待合所に来て乗船キップを回収する、

港から北に向かって部落を抜け、原野の細い道を歩いたら直きに北端の海にぶつかる。

村の生活は畑の芋作りと周りの海から魚や海藻を採る漁師である。しばらく前から海水を引いて海ブドウを養殖している家もある。

商港の北隣には漁港があり、小さな釣り舟やレジャー舟がもやっている。

フェリーでやって来た観光客はグルッと島を周って村の雰囲気を見たら、後は海で泳ぐか村の通りで子供達が遊んでいるのを見ているしかやる事が無い。

私は60代半ばにフェリー乗り場近くの公民館で三泊、一人ボート島で過ごしていた。

那覇の宿に戻って見慣れた懐かしい町に居たらホッとした。

その時の成果は一枚のスケッチ[島の漁港]だった。

